

平成 25 年度事業報告書

東京都目黒区下目黒 4 丁目 1 番 1 号
公益財団法人 目黒寄生虫館

はじめに

当法人は平成 25 年 4 月 1 日をもって公益財団法人に移行した。新法人になって初の年度であるとともに、目黒寄生虫館の創設から 60 年という節目となった。創設者 亀谷了の目指した「寄生虫学の研究と、その啓発による社会貢献」という意志は、新法人における公益目的事業として今日に至るまで引き継がれている。当年度に実施された各事業について以下の通り報告する。

研究等事業 (定款第 4 条第 1 号事業)

当法人における研究等事業は、寄生虫の分類学および形態学を主とした研究活動を主体とする。日本寄生虫学会をはじめ諸学会において研究報告・論文発表等を行っている。他方、旧法人下より長年に渡り継続している目黒区内の虫卵調査は、教育委員会からの委託を受けた地域貢献活動としての側面も併せ持つものでもある。さらには、日頃の研究成果や知識を基盤として他機関や広く一般に向けて助言・指導などを行っており、もって寄生虫学の発展に寄与している。

I. 寄生虫学に関する研究・調査活動

1. 寄生虫学に関する研究

A. 論文

1. 小川和夫ら

- 1) Praziquantel treatment against *Cardicola* blood flukes: determination of the minimal effective dose and pharmacokinetics in juvenile Pacific bluefin tuna.

Aquaculture, 402-403, 24-27.

クロマグロに寄生する住血吸虫 *Cardicola opisthorchis* に対するプラジクアンテルの最小有効濃度を決定し、クロマグロ幼魚内の薬剤の動態を明らかにした。

- 2) Genomic regions of pufferfishes responsible for host specificity of a monogenean parasite *Heterobothrium okamotoi*.

International Journal for Parasitology, 43 (11), 909-915.

トラフグに寄生する単生類 *Heterobothrium okamotoi* の宿主特異性を決定する遺伝子領域を特定した。

- 3) Involvement of phototaxis in fish-to-fish transfer of adult *Caligus sclerotinosus* (Caligidae) parasitic to red sea bream *Pagrus major* with some diagnostic data on the parasite infection.

Fish Pathology, 48 (3), 75-80.

マダイ体表に寄生する甲殻類 *Caligus sclerotinosus* について、養殖場における寄生状況を調査した。また、魚体間の移動に寄生虫の走光性に関わることを実験的に明らかにした。

- 4) Multiple gene analyses of caligid copepods indicate that the reduction of a thoracic appendage in *Pseudocaligus* represents convergent evolution.

Parasites & Vectors, 6, 336

遺伝子系統解析によって、寄生性甲殻類 *Pseudocaligus* は *Caligus* のシノニムであることを明らかにした。

- 5) Occurrence and molecular identification of *Anisakis* Dujardin, 1845 (Nematoda: Anisakidae) from marine fish in Southern Makassar Strait, Indonesia.

Korean Journal of Parasitology, 52 (1), 1-11.

インドネシアのマカッサルで漁獲された海産魚におけるアニサキスの寄生状況を調査し、遺伝子塩基配列から、寄生種を *Anisakis typica* と同定した。

- 6) Insemination of the monogenean *Neobenedeniagirellae* (Capsalidae, Benedeniinae). Parasitology International, 63 (2), 473-478.

海産魚類の皮ふに寄生する単生類 *Neobenedeniagirellae* の交接を *in vitro* で初めて観察し、記録した。自家受精も見られたことから、1 個体でも侵入すると、養殖場に定着する可能性を指摘した。

- 7) A new combination and a new species of onchobothriid tapeworm (Cestoda: Tetraphyllidea: Onchobothriidae) from triakid sharks.

Systematic Parasitology, 88 (1), 75-83.

ドチザメ科のサメに寄生する Onchobothriidae 科の条虫として、新種 *Calliobothrium shirozame* と新転属種 *Erudituncus xiamenensis* を形態学的に記載した。

2. 巖城 隆ら

- 1) Molecular phylogeny of the genus *Taenia* (Cestoda: Taeniidae): Proposals for the resurrection of *Hydatigera* Lamarck, 1816 and the creation of a new genus *Versteria*.

International Journal for Parasitology, 43(6), 427-437.

人体・人獣共通寄生虫種を含むテニア科条虫について、核およびミトコンドリア遺伝子を用いて分子系統解析を行ない、従来の *Taenia* 属と *Echinococcus* 属を再編して、*Hydatigera* 属の復活と *Versteria* 属の新設を提案した。

- 2) Molecular identification of species of *Taenia* causing bovine cysticercosis in Ethiopia.

Journal of Helminthology, FirstView Article pp 1-5, Published online: 04 March 2013 (オンライン掲載)

エチオピアの牛41頭からテニア科条虫幼虫を検出し、遺伝子解析により92.7%は無鉤条虫と同定されたが、7.3%は不明であった。鉤の形態的特徴から5種が候補に上がったが、確定はできなかった。

- 3) 上部消化管内視鏡検査で偶然発見された *Bolbosoma* 属鉤頭虫感染の 1 例.

日本臨床寄生虫学会誌, 24(1), 56-58.

東京の男性の胃粘膜に刺入していた虫体は、形態観察により *Bolbosoma* 属鉤頭虫の未熟な雄成虫と同定された。この寄生虫のヒト感染は今回が 8 例目である。

B. 学会発表

1. 小川和夫ら

1) ブリ属魚類に寄生する住血吸虫の分類学的検討

第73回日本寄生虫学会東日本支部大会、東京、平成25年10月。

ブリとヒラマサの鰓血管に寄生する住血吸虫類の形態と分類について口頭発表した。

2) ハダムシ *Neobenedenia girellae* の交接行動

平成25年度日本魚病学会秋季大会、津、平成25年9月。

海産養殖魚のハダムシ *Neobenedenia girellae* の交接行動について口頭発表した。

3) アニサキスとクドア

平成25年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会、幕張、平成26年2月。

魚の生食で問題になるアニサキスとクドアの食中毒について口頭発表した。

4) クロマグロ住血吸虫に対する(特異)抗体価の測定

平成26年度日本魚病学会春季大会、函館、平成26年3月。

住血吸虫 *Cardicola opisthorchis* の寄生に対するクロマグロのELISA抗体価の測定について口頭発表した。

2. 巖城 隆ら

1) 日本の野生鳥類の寄生蠕虫相調査の現状について

第73回日本寄生虫学会東日本支部大会、東京、平成25年10月。

1983～2012年に事故などにより収集された鳥類を検査し、84種173羽から吸虫類48種、条虫類20種、線虫類38種、鉤頭虫類12種を検出した(種同定に至らないものを含む)。

C. 第73回日本寄生虫学会東日本支部大会の共催

平成25年10月12日(土)、国立科学博物館(以下、科博)上野本館において、倉持利明氏(科博、当法人理事)と小川館長を大会長に、標記学会大会を科博と当法人の共催で実施した。大会では一般の15演題とシンポジウム「寄生虫の自然史」の8演題、計23演題が口頭発表された(参加者82名)。また、この機会に目黒寄生虫館所蔵の山口左伸博士の原図や原稿などの資料も参加者に特別公開された。

D. 研究助成

1. (独)日本学術振興会 科学研究費補助金 平成25～27年度 基盤研究(B)

「クロマグロ種苗生産過程で発生する寄生虫病の制御」研究代表者(小川和夫)

種苗生産過程で問題となる粘液胞子虫 *Kudoa* と住血吸虫 *Cardicola* spp. に関し、研究の初年度に当たり以下の結果を得た。陸上飼育のヒラマサ稚魚の *Kudoa yasunagai* 寄生をモデルとした系で、飼育水のUV処理が寄生を抑制することを明らかにした。ついで、ELISA法を用いてクロマグロ稚魚の *Cardicola opisthorchis* に対する特異抗体を測定し、特異的な免疫応答をすることを確認した。

2. (独)日本学術振興会 学術研究助成基金助成金 平成25～27年度 基盤研究(C)

「ハダムシ被害軽減のための新しい防除技術の開発」 研究分担者 (小川和夫)

ブリ類養殖で問題となるハダムシ *Neobenedenia girellae* に関し、研究の初年度に当たり以下の結果を得た。カンパチに寄生した *N. girellae* は昼夜を問わず、最高で毎分 1 個産卵した。自然光下では 1 日 1 回、午前中に孵化のピークが見られ、その時間帯に表層近くのカンパチに最も多く寄生した。網生け簀を遮光することによって、カンパチの寄生を 70%減少できた。また、*N. girellae* の交接を *in vitro* で初めて観察し、記録した。自家受精も見られたことから、1 個体でも侵入すると、養殖場に定着する可能性を指摘した。

2. 寄生虫データベースの整理

当法人の公式サイト上ではデータベース「目黒寄生虫館所蔵タイプ標本一覧」を随時更新している。平成 26 年 3 月時点における収録数は 1,459 点 (1,203 種) で、前年度と比べて 9 点 (8 種) が追加された。データベース「日本産哺乳類の寄生蠕虫類リスト」「鳥類の寄生蠕虫類リスト」の収録数はそれぞれ 4,033 件、2,053 件で、前年度と比べて計 221 件が追加された。

3. 目黒区内の砂場における寄生虫卵調査

目黒区教育委員会の委託により行われている調査で、平成 25 年度は目黒区立の 4 小学校・1 中学校が対象であった。平成 25 年 8 月 8 日と平成 26 年 2 月 4 日の 2 回、各施設の砂場とその付近から砂を採取し、寄生虫卵の有無を調査した。その結果、各施設の砂場から寄生虫卵は発見されなかったが、夏季調査において敷地構内の糞便から猫回虫卵、毛細線虫卵、猫条虫卵が検出された。児童が日常利用する場所に猫の糞便が見つかったため、施設構内の糞便による汚染には十分な注意が必要と思われる。また、調査時においてシートのかけられていない砂場や、シートが乱れたり砂に埋まっていたりする事例もみられたことから、糞便により汚染される可能性を含めて注意を喚起した。手洗いの励行などの留意事項を報告書にまとめ、教育委員会へ提出した。(小川和夫、巖城隆)

II. 学術資料の収集および管理

1. 学術資料の収集・貸出等

寄贈標本登録	5件	14点
外部への研究用標本貸出	4件	594点

2. 学術資料の整理

当法人では図書・逐次刊行物の収集を継続し、拡充を図っている。蔵書数は微増となり、平成 26 年 3 月末時点において 4,943 冊の目録が整備された。その他にも、内川公人博士より寄贈されたダニ類に関する論文別刷 793 部など、国内外の研究者・諸機関から多数の論文別刷の寄贈を受けた。現在これらの資料のデータベース化を進めている。

これら文献等の資料貸出は 2 件 45 点であった。

1) 図書・逐次刊行物

当年度中に 33 冊の図書を新たに登録した。これらは購入もしくは研究者や他の博物館からの寄贈によるものである。逐次刊行物についても同様に管理され、新規登録された学術雑誌の類はいずれも書庫に保管されている。当年度中に所蔵した図書の一例を以下に示す。

パラサイト：寄生虫の自然史と社会史（地人書館, 2013）

日本の蚊学 2：近代化発足の頃の文献集（有害生物研究会, 2013）

学名論：学名の研究とその作り方（東海大学出版会, 2012）

Functional Morphology of Trichinella（三恵社, 2012）

Parasitic Zoonoses in Asian-Pacific Regions 2012（三恵社, 2013） ほか

2) 論文別刷等の整備と電子情報化

文献室に保管する論文別刷のデータベース化を進めている。従来、別刷の管理に用いられていた図書カード（34,859 件）のデータベース登録は平成 25 年春で一旦完了し、コンピュータ上で検索可能になっている。一方、今年度の新着寄贈別刷のデータベース登録数は 1,098 件であった。平成 26 年 3 月時点における論文別刷等のデータベース総収録数は 39,607 件であった。

III. 寄生虫に関する助言および指導、外部研究者との連携協力

1. 寄生虫に関する助言および指導

博物館来館者による質問、電話およびFAXで受けた質問等はそれぞれ52件、41件および6件であった。一般から依頼された寄生虫同定・異物鑑定は11件であった。そのほか、大学の卒業論文（1件）の作成に関して指導・助言を行なった。

2. 外部研究者との連携協力

- 1) 平成21年に他界された故 大鶴正満博士の関連資料は、これまで琉球大学に保管されていた。このたび青山学院大学文学部の飯島渉研究室を中心として整備が進められることとなったため、収蔵庫や研究室のスペースを提供するとともに、専門的な記述などについて助言を行った。散逸された寄生虫学者のデータを整備し、適切に管理することは博物館・研究機関の担うべき極めて重要な機能のひとつといえる。
- 2) 学術資料の中には昭和30年代に製作された教育用の蠅模型もあり、約30点の資料を所蔵している。しかし、製作者の沼田仁吉氏に関する記録は少なく、未だ不明な点も多い。このたび東京大学総合文化研究科の石原あえか氏・北里柴三郎記念室の檀原宏文氏を中心に、日本におけるムラージュ（医療用蠅細工）製作の系譜に関する研究が行われることとなり、この調査に協力した。本蠅模型について、製作や寄贈に至る足跡などが明らかにされることが期待される。

普及啓発事業（定款第4条第2号事業）

I. 「目黒寄生虫館」の管理運営事業

当法人の所有する建物は1階と2階に常設展示室を設けており、設立以来、一貫して無料開館を継続している。運用収入が低下して久しいが、来館者による寄付金は年間350万円を超え、運営の貴重な一助となっている。さらに当年度は大口の寄付金も得られ、当法人の事業活動に対する認知と理解は着実に浸透している印象を受ける。通常は年1回の頻度で開催される特別展示も周年行事が重なって2つの企画が同時進行で行われることとなり、常設展示の新設・更新なども含めて活発な啓発活動が実施された。

1. 開館日数および来館者数

平成25年度の開館日数は307日であった。来館者総数は約57,500名であり、1日あたり約187名の換算となる。これは前年度報告と比べて微増である。

全来館者のうち、事前申込みを受けた見学者数は2,209名にのぼった。予約をせずに来館する団体もあるので実態は必ずしも明確ではないとはいえ、前年度に比べて500名以上増加している。専門学校の講義利用に限らず、修学旅行や地域散歩における利用など、団体や目的も様々である。

2. 展示室パネルおよび液浸標本の整備

展示室1階の電飾パネル「日本の風土病的寄生虫症」は平成5年のリニューアル以降更新されておらず、情報の陳腐化はもとより、接触の不具合も目立ち始めた。また、地図上の位置を示すための麦球も市販されなくなり、交換不能となっていた。そこで同じく情報更新が必要な2階の電飾パネル「世界の熱帯病」エリアを利用して、タブレット端末を用いた新たなパネルを製作した。平成26年3月10日の休館日に、従来のパネルを撤去して新しいパネルを取り付けた。なお、本パネルの製作は（一財）全国科学博物館振興財団平成25年度科学系博物館活動等助成事業の助成（35万円）を受けたものである。

その他にも「魚の寄生虫」コーナーを新設し、「寄生原虫」パネルのリニューアルを実施した。来館者からも「寄生虫の動画が見たい」という声がつとに聞かれてきたため、パネルやケースにデジタルフォトフレームを組み込み、動画やスライドショーなどが見られるように配置した。豊富な視覚情報によって理解がよりいっそう深められる。

液浸標本も必要に応じて適宜交換ないし再製作した。中でも、1階の導入展示で寄生虫の多様性を説明するため、異なる生活環をもつ複数の寄生虫を配するなど、大幅に整備を施した箇所もある。

3. 取材対応・画像提供

毎年様々なマスコミから取材や誌面掲載の依頼を受け、年間で62件の申請があった。申請数は前年度報告とほぼ同数である。このうち学術的意義の大きいものや、博物館の周知に適切と判断される媒体38件について取材対応または画像提供を行った。内訳はテレビ5件、新聞3件、書籍8件、雑誌・冊子類12件、ウェブサイト8件であった。年間1、2件だった海外からの取材申請も7件ののぼり、国内のみならず世界的にも博物館に向けられる興味の高まりがうかがえる結果となった。

II. 教育普及活動事業

1. 特別展示（主催）

平成 25 年 4 月 27 日から 9 月 23 日まで「創設 60 周年&公益財団法人移行記念・目黒寄生虫館の 60 年」と題して、博物館の成り立ちをパネルで紹介し、関連する標本を展示した。寄生虫症が日本にありふれた病気だった 60 年前、寄生虫学の研究と啓蒙活動のための施設が創設された役割は大きい。博物館が果たすべき役割を今一度再確認して次世代へと継承する意義深い展示となった。なお本展示に際し、過去に御来館いただいた皇室の方々の御写真の掲載にあたっては、宮内庁長官官房総務課の許諾を得た。

さらに、並行して平成 25 年 7 月 30 日から 12 月 28 日まで「ミヤイリガイ発見から百年—日本住血吸虫症の終息まで—」と題した展示を行った。日本住血吸虫症の撲滅に至る経緯と貝を発見した宮入慶之助の功績について、パネル・映像・実物標本を用いて解説した。初めての 2 企画同時開催となったため、2 階展示室の一角を整備してピクチャーレールを取り付け、アクリルの展示ケースを製作した。この区画は今後もミニ展示などに活用できる。

2. 特別展示（共催）

平成 25 年 5 月 15 日から 6 月 16 日まで、企画展示「日本はこうして日本住血吸虫症を克服した—ミヤイリガイの発見から 100 年」（国立科学博物館 日本館地下 1 階多目的室、主催：国立科学博物館、共催：当法人および NPO 法人宮入慶之助記念館）が開催された。展示資料の提供や展示室の設営・片づけも含め、全面的に企画に参加・協力した。同時期には大規模特別展示も開催されていたため来場者数は多く、1 ヶ月間に約 30,000 人が見学した。

3. 講演会等

職員による講演等の依頼があった場合には、それらを随時受け入れる。講演等の招聘は法人事業の紹介の場を館外へと拡充し、寄生虫学に対する理解を深めることでさらに利用者の裾野を広げるものである。当年度中に実施された主な会を以下に挙げる。

平成 25 年 9 月 7 日 葛飾区郷土と天文の博物館「人のくらしと寄生虫」（巖城隆）

平成 25 年 9 月 18 日 渋谷区食品衛生消費者懇談会「食品の寄生虫」（巖城隆）

平成 26 年 2 月 21 日 横須賀市保健所「健康被害を起こす魚介類の寄生虫」（小川和夫）

さらに、前年度末に資料提供や内容指導面で協力を行った劇団・青年団による舞台「この生は受け入れがたし」が 4 月に上演され、小川館長がトークイベントに出席した。平田オリザ氏脚本によるこの戯曲は「寄生虫館物語（著：亀谷了）」に影響を受けて製作された、寄生虫学研究室を舞台とした作品である。初演から 17 年が経ち、学術的にも新たな見解・知見が脚本に反映されたことで、学問の理解と発展を促進するに相応しい舞台となった。

4. 実習生受入

当法人の運営する博物館は博物館法第 2 条に定義される登録博物館である。そのため、博物館法施行規則第 2 条に基づき、博物館学芸員資格取得のための実習生を例年受け入れている。実習の目

的は日常的な業務に携わることで博物館運営への理解を深めることにある。内容は館内清掃や来館者対応に始まり、資料整備や展示物の製作・加工など多岐に渡る。パネルのデザインを担当する者や、研究員の指示のもと研究事業に貢献する者など、学生個人のスキルが活かせるよう、適材適所の実習内容を目指している。当年度は以下の8大学、計10名が参加した。初めて申請のあった大学が半数にのぼる一方で、学生数は例年と比べて少ない。これは就職活動等の理由により直前になって実習をキャンセルする大学が複数校みられたことによる。事業活動にも少なからず影響があるため、今後はキャンセル時の対応を含めて大学側とよく協議する必要がある。

鹿児島大学 立正大学 日本大学 多摩美術大学 武蔵野美術大学 女子美術大学
筑波大学 名城大学 (受入順)

Ⅲ. 寄生虫学への理解を深める資料の刊行・製作事業

1. 刊行物の製作と頒布

広報誌「むしはむしでもはらのむし通信」は平成25年12月20日に第193号(B5版 カラー16ページ)を刊行した。巻頭の読み物は巖城隆研究員が執筆し、「日本人のくらしと寄生虫」を掲載した。その他、常設展示の更新情報や特別展示の実施記録など、事業の実施状況の周知も兼ねた刊行物となっている。発行部数600部に対し、約150部を関係機関・博物館等に配布して他館との資料交換に応じた。一般希望者には約50部を年度中に販売し、残部は次年度以降も引き続き頒布する。189号からのバックナンバーを含めた頒布数は年間約320部であった。

また、当年度も展示ガイドブック和文版/英文版(B5版 カラー16ページ)の有償頒布を行った。小ロットでの印刷を続けながら、常設展示に加わった「魚の寄生虫」「風土病的寄生虫病」を反映するなど、常に更新を続けている。年間頒布数は約1,600部を数え、うち約250部が英文版であった。

2. 教育用標本の頒布

昭和50年代に日本寄生虫学会からの委託により発足した「教育標本サプライセンター」を前身として、医学系の大学や教育機関等を対象に寄生虫標本を販売している。平成25年度はほぼ例年並みの26機関から依頼を受けた。販売数は寄生虫卵液浸標本115本、スライド標本(塗抹染色・組織薄切等)795枚であった。当年度は新設大学による一括購入があったため購入額は前年より大きく伸びた。これらの標本は関連する学部の多くの学生たちにとって、寄生虫学を理解するための一助となっている。その一方で、在庫が尽きて販売を中止した種もある。頒布用標本の製作については、各機関や学校のニーズも聞き取りながら、今後も検討を重ねなければならない。

Ⅳ. 目黒寄生虫館ミュージアムショップの運営事業

展示室2階に併設されたミュージアムショップにおいて、前項の刊行物の販売、ならびに寄生虫学関連書籍やオリジナルグッズの委託販売を継続した。新規商品としては、日本寄生虫学会から製作の打診を受けた「ミヤイリガイストラップ」を学会大会後も期間限定で販売した。来館者の興味は高く、日本住血吸虫撲滅の意義の認知という観点からも高い効果が得られた。一方で、寄生虫を

封入したキーホルダーは製作工場の倒産により販売中止となった。魚類寄生虫の注意喚起にもつながるアイテムであるため、同様の加工ができる業者の選定が進められた。

また、当法人が監修した「寄生蟲図鑑：ふしぎな世界の住人たち」（飛鳥新社）が刊行されると、エッセイ調の読みやすさと綺麗なイラストレーションが好評を呼び、特に人気が高い作品となった。その他「寄生虫のふしぎ（技術評論社）」「寄生虫の奇妙な世界（誠文堂新光社）」等、当法人の著作や監修の書籍を中心に、寄生虫学の関連書籍も数多く販売された。見学後も書籍を通して学習活動が続けることで、館内で得られた知識と興味は持続される。利用者の生涯学習を促すきっかけづくりとしても有効に作用しているといえる。

その他実施事項等

I. 理事会・評議員会等の開催

1) 平成 25 年度第 1 回定時理事会開催

開催日時 平成 25 年 6 月 16 日（日） 午後 2 時～3 時 30 分

開催場所 目黒寄生虫館 6 階 生涯学習室

出席理事数 6 名（総数 8 名） 出席監事数 2 名（総数 2 名）

報告事項 1 理事長・常務理事による職務の執行状況の報告

報告事項 2 監事監査規程制定に関する報告

下案を審議し、可決承認した。

第 1 号議案 公益財団法人目黒寄生虫館定款の件

第 2 号議案 公益財団法人目黒寄生虫館平成 25 年度事業計画書及び収支予算書の件

第 3 号議案 公益財団法人目黒寄生虫館各種細則の件

第 4 号議案 平成 24 年度事業報告書案及び収支決算書案承認の件

第 5 号議案 当法人の基本財産の制定の件

第 6 号議案 定時評議員会の日時及び目的である事項等の件

2) 平成 25 年度第 1 回定時評議員会開催

開催日時 平成 25 年 6 月 30 日（日） 午後 2 時～3 時 30 分

開催場所 目黒寄生虫館 6 階 生涯学習室

出席評議員数 6 名（総数 8 名）

他 出席役員 5 名（理事長・常務理事 2 名・監事 2 名）

報告事項 1. 公益財団法人への移行手続の完了報告

報告事項 2. 平成 25 年度第 1 回定時理事会の報告

報告事項 3. 監事監査規程制定に関する報告

下案を審議し、可決承認した。

第1号議案 評議員会会長の選出の件

第2号議案 公益財団法人目黒寄生虫館定款の件

第3号議案 公益財団法人目黒寄生虫館各種細則の件

第4号議案 平成24年度事業報告書案及び収支決算書案承認の件

3) 平成25年度第1回臨時理事会（みなし決議）

開催があったものとみなされた日時 平成26年2月6日（日）

決議があったものとみなされた内容

第1号議案 平成25年度補正収支予算書（資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類を含む）の承認の件

4) 平成25年度第2回定時理事会開催

開催日時 平成26年3月16日（日） 午後2時～3時

開催場所 目黒寄生虫館6階 生涯学習室

出席理事数 6名（総数8名） 出席監事数 2名（総数2名）

報告事項1 理事長・常務理事による職務の執行状況の報告

下案を審議し、可決承認した。

第1号議案 公益財団法人目黒寄生虫館平成26年度事業計画書及び収支予算書の件

II. 省庁および自治体等への届出事項、他

平成25年

4月1日 特例財団法人の名称の変更による解散登記申請書／設立登記申請書 東京法務局

4月1日 「国と特に密接な関係がある公益法人への該当性について」報告書 総務省

4月12日 移行登記完了届出書 文部科学省

4月12日 「特定公益増進法人であることの証明書」の返還の届出書 文部科学省

4月24日 事業開始等申告書・異動届出書（名称及び法人区分の変更） 目黒税務署

4月30日 不動産登記名義人名称変更（土地及び建物） 東京法務局

5月31日 確定申告書（法人税等） 目黒税務署

6月30日 平成24年度事業報告書・収支決算書等の届出書 文部科学省

8月15日 平成25年度「砂場の寄生虫卵調査」中間報告書 目黒区教育委員会

平成26年

2月20日 平成25年度「砂場の寄生虫卵調査」成績報告書 目黒区教育委員会

3月11日 休日労働・時間外労働に関する協定書 品川労働基準監督署

3月22日 平成26年度事業計画書および収支予算書の届出 内閣府

その他、各種調査書類等への回答 内閣府等

Ⅲ. その他の事項

1. ウェブサイト

公式サイト (<http://www.kiseichu.org/>) では目黒寄生虫館からの情報発信、すなわち事業内容や開館案内等を紹介している。定款や登記事項に記載される法人の公告の場でもあるため、更新を怠らぬよう情報公開に努めている。

前年度から開始した「日本における寄生虫学の研究」PDF ファイルの公開は、和文版 6, 7 巻および英文版 Vol.7, 8 をアップロードし、全論文の公開が完了した。研究活動の成果をインターネット上に公開することは公益性も高く、効果的な活用が展開できる。

2. 博物館に隣接する自動販売機について、雑収入を計上した。